

目 次

I 研究の概要

1	研究の背景	37
2	研究のねらい	38
3	研究の仮説	38
4	研究の内容	38

II 研究の実際

1	アンケート調査について	39
2	アンケート調査の分析より	40

III 参考資料「先輩教師の技とコツブック」の作成について

1	参考資料「先輩教師の技とコツブック」の作成に当たり	46
2	参考資料「先輩教師の技とコツブック」	47

IV まとめ

1	研究の成果	54
2	課題と今後に向けて	54

■	引用・参考文献	55
---	---------	----

I 研究の概要

1 研究の背景

近年、いじめや不登校、発達障害、貧困や虐待、ヤングケアラーの問題など、多様な背景をもつ児童生徒が増えています。生徒指導提要では、発達支持的生徒指導をベースとして、全ての児童生徒を対象とした安全・安心な環境づくりのために、児童生徒一人一人の内面に寄り添い、児童生徒同士のよりよい人間関係を育てるための働き掛けをするなど、きめ細かい対応が強く求められています。しかし、現在、教育現場では、全国的に教員不足が深刻化し、ベテラン教員の大量退職により、教員の年齢構成のアンバランスさが課題となっている地域も増えています。また、令和5年度公立学校教職員の人事行政状況調査(2024.12)では、過去5年間で見ると、精神疾患による病休者が過去最高となっており、その中でも20代の教員の病休者率の増加が最も高くなっています。

教員の人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動ができるように働き方改革が様々検討されていますが、教師の抱える悩みとして学級経営や生徒指導、中でも児童生徒への対応の困難さを上位に挙げている文献(2021 丹野、2020 諸富)や報告(2016 ベネッセ第6回学習調査)も見られます。現在、慢性的な業務の多忙化等でストレスを抱え、時間的にも精神的にも余裕のない中で、日々、児童生徒との関係づくりに悩みを抱えている若手教師が増えてきている状況にあることが推測されます。

令和5年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」がコンセプトとして掲げられています。児童生徒のウェルビーイングの向上のためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要であると述べられています。ウェルビーイングな生活を送るためには、職場の人間関係の在り方が大きな影響を与えられているとされており(2023 横田)、特に学校現場においては、児童生徒と教師との良好な関係は大切な要素の一つとなると考えます。

業務の精選をしたり、校内で相談できる体制づくりをしたりして児童生徒と関わる時間を確保することなども求められますが、現在の限られた時間の中でも、若手教師が先輩教師の経験から導き出された児童生徒への対応の在り方に触れながら、自身の関わり方を振り返り、見直す機会を工夫して設けていくことが教育活動の支えになり、効果的で実践的な力量形成の助けになると考えます。以上の背景を踏まえ、若手教師が、先輩教師の具体的な経験に基づいた心構えや対応の在り方からヒントを得て、日々の児童生徒との関係づくりの在り方を振り返ることができるようなツールを作成・活用していくことで、自信や余裕をもって児童生徒に関わろうとする意欲が高まり、ふだんの関わり方が改善されるのではないかと考えました。そして、それに伴って児童生徒との関係性や児童生徒の気になる行動が改善されていくことを期待しています。また、結果として児童生徒と教師の双方にとって、ウェルビーイングな学校につながっていくと考えます。

2 研究のねらい

若手教師が抱える児童生徒との関係づくりにおける具体的な悩みごとを明らかにし、先輩教師の経験に基づく心構えや支援の在り方などの好事例や、失敗体験を基にしたアドバイスをまとめた参考資料を作成する。

参考資料の活用により、若手教師の児童生徒へ関わる心構えや関わり方を改善するとともに、若手教師と児童生徒との関係性や児童生徒の気になる行動を改善できるようにする。

3 研究の仮説

児童生徒との関係づくりについて、若手教師の具体的な悩みごとに対する先輩教師の対応事例を集めた参考資料を作成し、若手教師が実践に生かすことで、若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりが促進されるであろう。

4 研究の内容

(1) 1年次（令和6年度）の取組

- ①若手教師の「児童生徒との関わり」に関する具体的な“悩みごと”の調査及び分析
- ②若手教師へのアンケート結果を基にした、若手教師へのアドバイスの収集
- ③アンケートの結果を基にした「先輩教師の技とコツブック」（試案）作成
- ④1年次の研究内容を発信

(2) 2年次（令和7年度）の取組

- ①「先輩教師の技とコツブック」（試案）の活用及び活用についての検証
 - 1)「先輩教師の技とコツブック」を若手教師に配付し、参考資料として活用を図る。
 - 2)参考資料としての活用状況を調査する。
- ②「先輩教師の技とコツブック」の追加及び修正
 - 1)児童生徒への対応事例の追加及び修正を行う。
 - 2)若手教師が児童生徒との関わり方を見直す「関わり方チェックリスト」を作成する。
- ③2年目の研究内容を発信

(3) 3年次（令和8年度）の取組

- ①「先輩教師の技とコツブック」「関わり方チェックリスト」を配付、活用
 - 1)第1ステージの教師を対象に資料を配付し、参考資料としての活用を図る。
 - 2)資料活用後の教師自身と児童生徒の変容を調査し、分析する。
- ②「先輩教師の技とコツブック」の追加及び修正
 - 1)児童生徒への対応事例の追加及び修正を行う。
 - 2)「関わり方チェックリスト」を修正する。
- ③3年目の研究内容を発信

Ⅱ 研究の実際

1 アンケート調査について

(1) 悩みや困りごとに関するアンケート調査の実施

県内の教員がどのようなことに悩み、困っているのか傾向を把握するため、当センターの研修講座受講者683名を対象に、アンケート調査を実施しました。アンケート調査を実施した研修講座及び主な質問内容は次のとおりです。

◎アンケート調査実施研修講座

- ・初任者研修講座（小・中・高・特）139名
- ・実践的指導力習得研修講座（2年目）（小・中・高・特・養）153名
- ・教職5年目研修講座（小・中・高・特・養）145名
- ・実践的指導力向上研修講座（8年目）（小・中・高・特・養）115名
- ・中堅教諭等資質向上研修講座（小・中・高・特・養）131名

◎主な質問内容

○現在、教師として悩んでいること（複数選択）

- ・授業、学習指導 ・児童生徒との関わり ・校務分掌 ・保護者対応
- ・私生活とのバランス ・教師間の人間関係 ・特に悩みはない ・その他

○児童生徒との関係づくりでこれまで悩んだり、困ったりしたこと

→ある場合、その内容について（複数選択）

- ・気になる児童生徒への対応の在り方 ・児童生徒の内面の理解
- ・児童生徒間のトラブルへの対応 ・児童生徒と十分に関わる時間がない
- ・教師間の考え方に違いがある ・児童生徒の特性等への対応
- ・保護者との関係 ・家庭環境が複雑 ・その他

→解決方法や解決状況について（複数選択）

- ・本や資料で勉強した ・研修会に参加した ・先輩教師に相談した
- ・若手教師同士で話し合った ・管理職に相談した
- ・他校の先生に相談した ・家族に相談した ・時間が解決するまで耐えた
- ・その他

(2) 若手教師へのアンケート調査の実施

若手教師が抱えている児童生徒との関わりに関する具体的な悩みを把握するため、当センターの実践的指導力習得研修講座（2年目）の受講者153名を対象にアンケート調査を実施しました。質問内容は次のとおりです。

主な質問内容

○関係づくりで悩んだり、困ったりした（している）内容について（記述）

○児童生徒との関係づくり（コミュニケーション等）において、自身が感じている課題について（選択肢から選択）

- ・自分の指導に自信がない ・児童生徒の行動が理解できない
- ・つい厳しく関わってしまう ・つい甘く関わってしまう
- ・褒め方、叱り方が分からない ・他の教師と連携をとれない
- ・保護者との関係がうまく築けない ・その他

○児童生徒との関わりをよくしていくために、心掛けていること（記述）

○児童生徒との関わり方をよくするために、知りたいこと（記述）

(3) 先輩教師からのアドバイスの収集

中堅教諭等資質向上研修講座の受講者131名に、若手教師の悩みや困りごとについての要約を示し、アドバイスを若手教師に送るメッセージとして回答を集めました。

2 アンケート調査の分析より

(1) 県内の現状について

①教師として悩んでいることについて

現在、教師として悩んでいることについての質問では88%の教員が悩みがあると回答しました。さらに、どのようなことに悩んでいるか質問したところ、最も回答が多かったのは「授業、学習指導（58%）」、「私生活とのバランス（52%）」、「児童生徒との関わり（38%）」と、続いています（図1）。

また、キャリアステージごとにクロス集計を行ったところ、各キャリアステージにおける状況は図1に示す表のようになりました。第1ステージの教員は「授業、学習指導」「児童生徒との関わり」で悩んでおり、第2、第3ステージの教員は「私生活とのバランス」「授業、学習指導」で悩んでいることが分かりました。

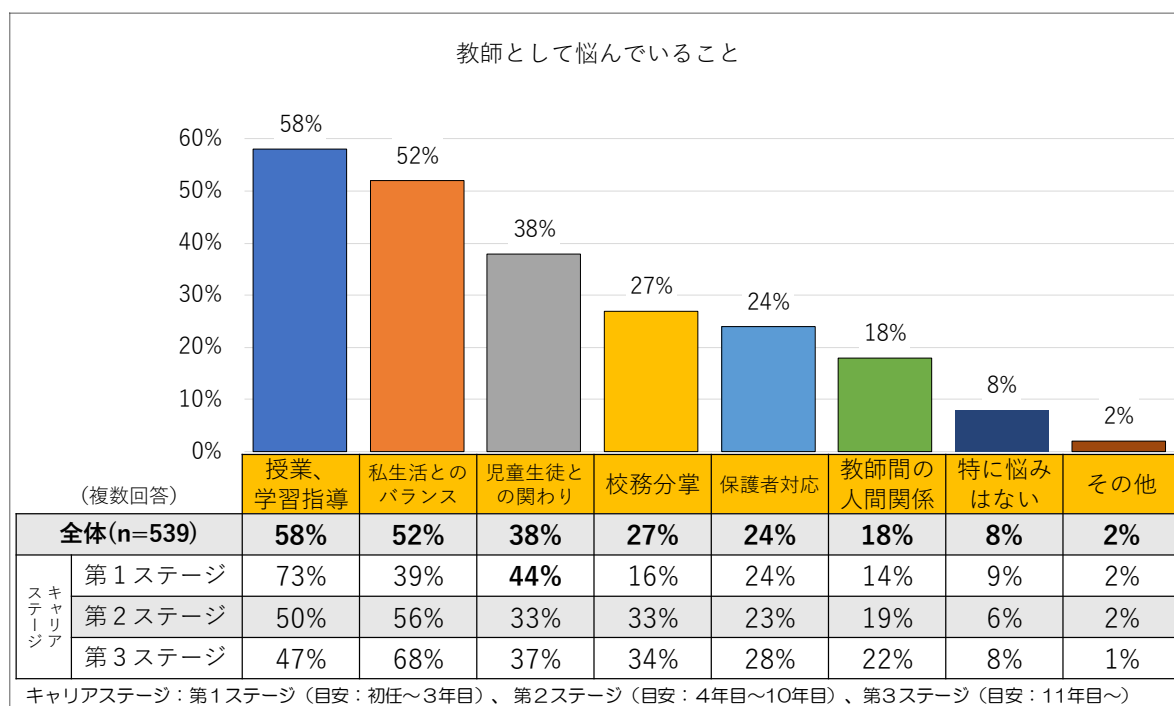


図1 教師として悩んでいること（キャリアステージ別）

第1ステージの教員で割合が大きくなった「児童生徒との関わり」について、各教師が児童生徒と対応してきた経験が大きく影響していると思われます。そこで、経験年数による違いを確認するため、児童生徒と関わった年数として講師経験等を含めた教職経験年数で、クロス集計を行いました（図2）。その結果、教職経験年数によって悩んでいる教師の割合に違いがあることが分かりました。児童生徒との関わりについて、教職経験年数が1年から5年の教師が、それ以上の教職経験がある教師よりも悩んでいる割合

が大きいことを確認できました。年代別に行ったクロス集計の結果でも同様の傾向が見られ、経験の浅い若手教師が、児童生徒との関係づくりに悩みを抱えている傾向があることが分かりました（図3）。

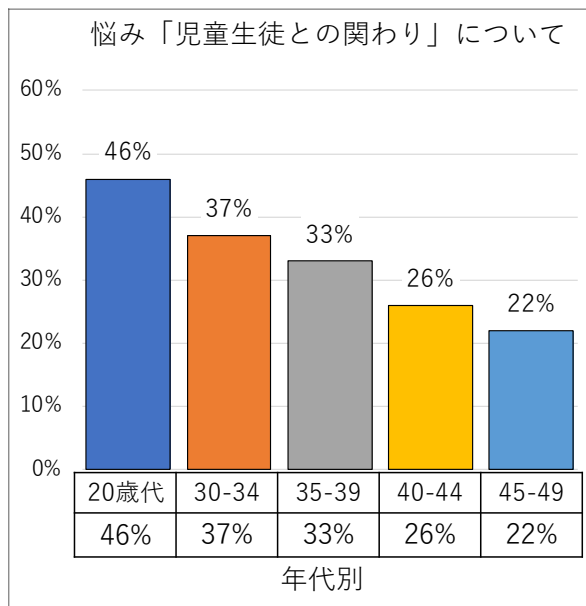


図2 年代別

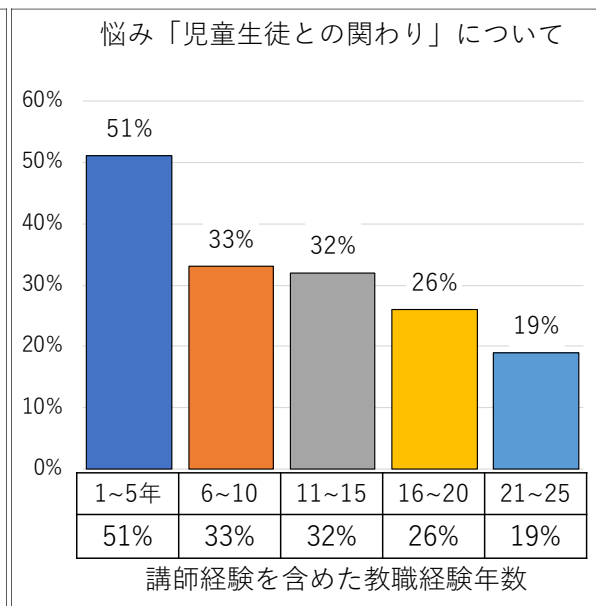


図3 教職経験年数別

教職経験年数1～5年の教師の現状について集計しました（図4）。

全体（図1）と比較しても「授業、学習指導」「児童生徒との関係づくり」における悩みの割合が大きいことが分かります。校種による特徴としては、特別支援学校と小学校において「授業、学習指導」の割合が大きくなっています。

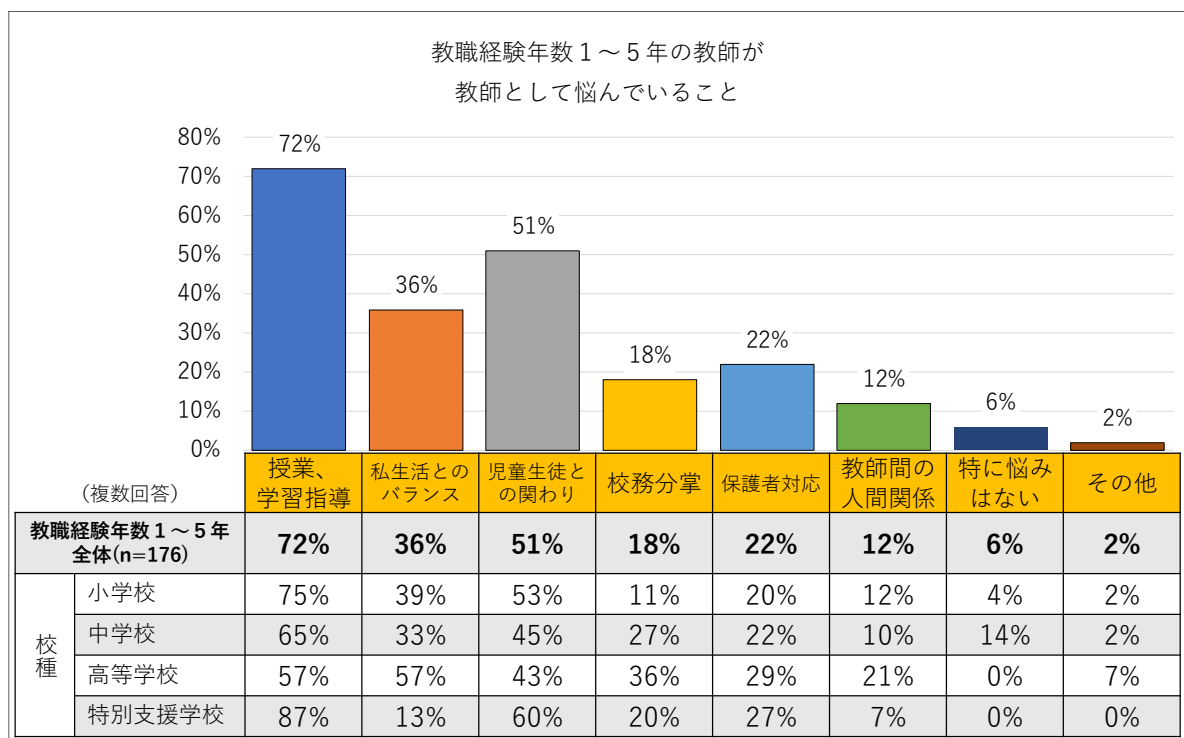


図4 教職経験年数1～5年（校種別）

②児童生徒との関係づくりにおいて悩んだり困ったりしたこと

図5は、児童生徒との関係づくりにおいて、どのようなことで悩んだり困ったりしているのかについての、アンケート調査の結果です。「気になる児童生徒への対応の在り方」と回答した割合が最も多く、続いて「児童生徒間のトラブルへの対応」「児童生徒の特性等への対応」で悩んでいることが分かりました。キャリアステージで比較すると、キャリアステージが進むに連れ「児童生徒の特性への対応」「児童生徒の内面の理解」「家庭環境が複雑」「保護者との関係」で悩んでいる割合が大きくなっていました。これは、教職経験を積むことで、求められる役割が変化していくためと思われます。

教職経験1～5年の教師においても同様に「気になる児童生徒への対応の在り方」と回答した割合が最も大きく、続いて「児童生徒間のトラブルの対応」「児童生徒の特性等への対応」で悩んでいることが分かりました。校種別で比較すると、小学校で「児童生徒間のトラブルへの対応」の割合が大きく、高等学校と特別支援学校で「児童生徒の内面の理解」の割合が大きくなっていました。

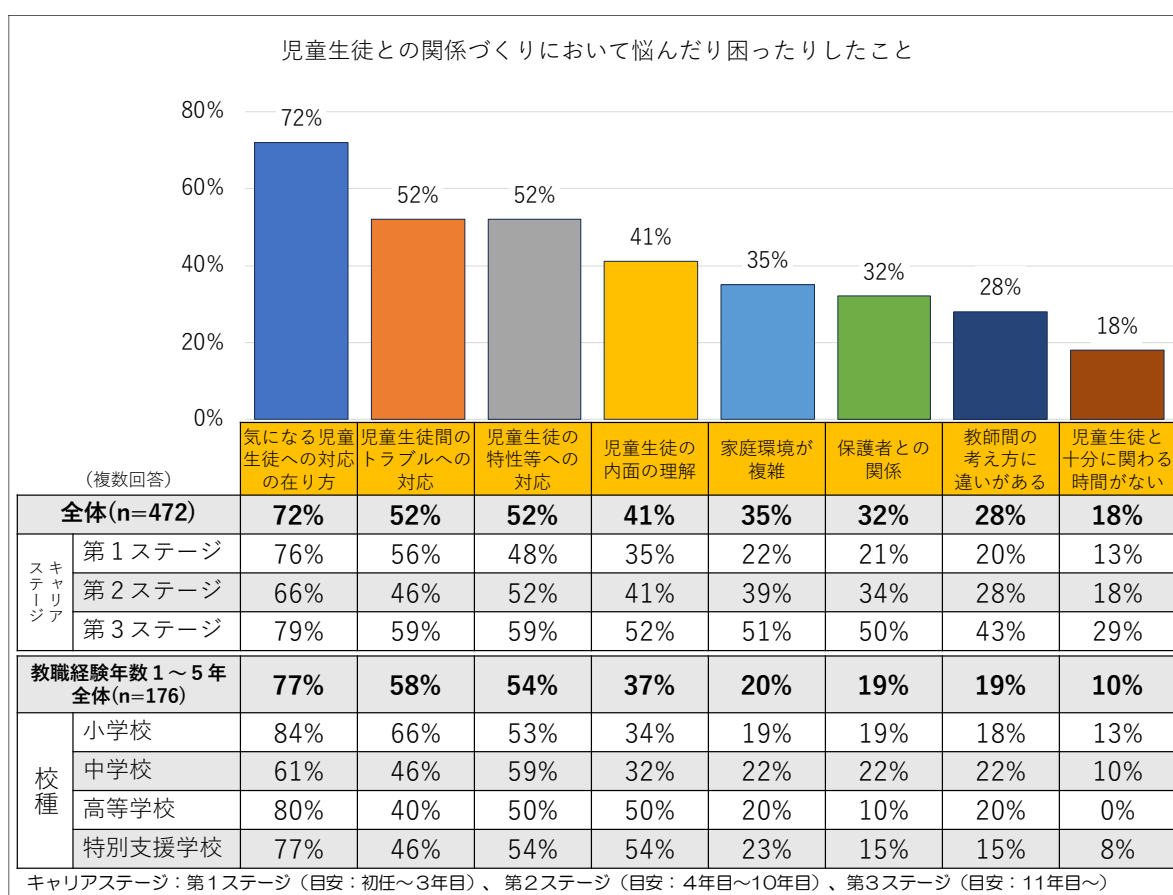


図5 児童生徒との関係づくりにおける困りや悩みの内容

③悩みに対する解決方法について

図6は、これまでどのように悩みを解決してきたのか質問した結果です。「先輩教師に相談した（91%）」が最も割合が大きく、続いて「管理職に相談した（73%）」でした。多くの教師は先輩教師に相談することによって悩みの解決のヒントを得たり、助言をもらったりしており、先輩教師に相談することが、悩みの解決において実効性がある手立てとなっていることが考えられます。

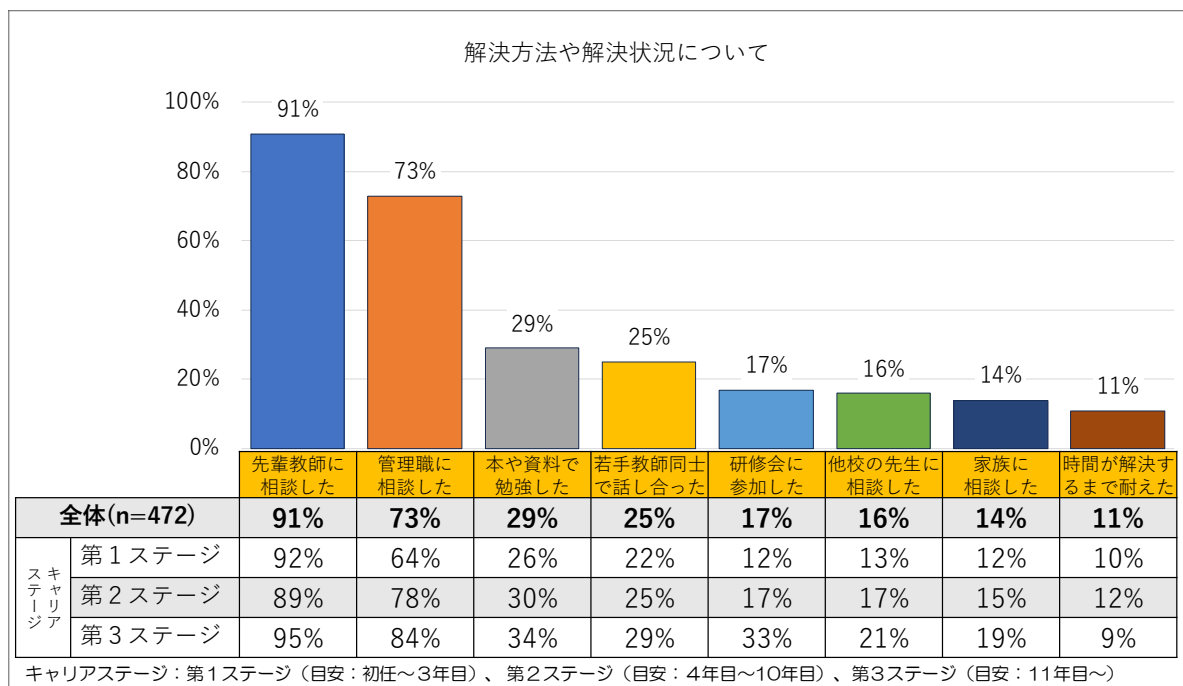


図6 悩みの解決方法や状況

(2) 若手教師の悩みや困りごとの内容について

若手教師は「気になる児童生徒への対応の在り方」「児童生徒間のトラブルへの対応」「児童生徒の特性等への対応」で悩んでいます（図5）。具体的にどのようなことで悩んでいるのか、その詳細を把握するため、実践的指導力習得研修講座の受講者を対象に行ったアンケート調査の記述内容をテキストマイニングソフトを用いて分析しました。要約したところ、主に次に示す五つの内容にまとめることができました。

①児童生徒との距離感と対応の難しさ

児童生徒との適切な距離感が分からず、細かい注意をどれだけ行うべきか悩んでいることが分かりました。また、学習に気持ちが向かない児童生徒への対応や、問題行動が見られる児童生徒に対する指導方法についても困難を感じています。

②保護者とのコミュニケーション

発達障害のある子どもをもつ保護者からの多様な意見や要望に直面し、家庭との連携が難しいと感じている教師や、不登校児童生徒の保護者とのやり取りの頻度や要望への対応に苦慮している教師がいることが分かりました。

③児童生徒間の人間関係とトラブル

児童生徒同士のトラブルや、からかいの問題に対する指導方法に悩んでいるということから、特に、反抗的な児童生徒や自閉的傾向のある児童生徒への接し方が難しいと感じていることが分かりました。

④個別対応の必要性

個別対応が求められる児童生徒が増えており、他人とうまく関わるできない児童生徒の理解と支援が必要であると感じています。

⑤教師自身の課題

教師自身の行動や言葉掛けが児童生徒に伝わっているか自信がもてず、毅然とした態

度で指導できるようになりたいと考えています。また、児童生徒の心身の状態を理解するための関わり方が個々に異なるため、対応が難しいと感じていることが分かりました。

児童生徒への対応について、他の教師と意見が異なったり、周囲に相談できず抱え込んだりするなど、教師間の連携の在り方で悩んでいる教師がいることが分かりました。

(3) 若手教師が児童生徒との関係づくりにおいて知りたいと感じていること

アンケート調査では、若手教師から教育現場における困難な児童生徒への関わり方や指導方法に関する考察や質問が寄せられました。以下にその要約を示します。

①児童生徒との関わり方

教師が児童生徒とじっくり関わる時間が不足している中で、どのように児童生徒に寄り添えばよいのか分からず、課題であると感じています。

②具体的な指導方法

例えば保健室登校や授業中の行動について、どの程度まで許容し、指導すべきかなど、具体的な指導方法や基準を知りたいと感じています。

③コミュニケーションの仕方

児童生徒への指示においては、短く簡潔に話すことの重要性が認識されていますが、具体的な言葉選びや短さについて、具体例を通して知識を得たいと感じています。

④児童生徒の意欲向上の方法

学習への意欲を感じない児童生徒への指導に課題を感じており、児童生徒が前向きに取り組むための言葉掛けや励ましの方法について知りたいと感じています。

⑤褒め方や指導の工夫

褒め方や指導の際に伝えるべき内容、語彙の増加についての関心が示されています。

アンケート調査からは、若手教師が生徒指導や学級経営において、具体的な方法論や事例に基づいた実践的なアドバイスを求めていることが分かりました。また、児童生徒への関わり方だけでなく、教師自身の心のケアや成長についても関心が高いことが読み取れました。

(4) 先輩教師から若手教師へのメッセージより

中堅教諭等資質向上研修講座受講者131名から寄せられた、若手教師へのメッセージ（総抽出語数8,708語）について記述内容を分析しました。テキストマイニングソフトを用いてカテゴライズし、単語の頻度から内容を分析しました（表1）。

「相談・連携」に関する単語が非常に多く、特に「相談」「連携」「チーム」「周りの先生」といった言葉が頻繁に使われていることから、教員間の連携と協力が極めて重要であると伝えていることが分かりました。

「児童生徒」に関する単語も多く、生徒や児童との良好な関係を築くこと、彼らの話をよく聞くこと、寄り添う姿勢が大切であると伝えていることが分かりました。

「教師・自己」に関する単語も多く、教師自身の悩み、自己成長、心身の健康も重要であると伝えていることが分かりました。

「保護者」との連携も重視されており、保護者との信頼関係を築き、協力していくことの重要性が示唆されています。

特に、「相談」「連携」「チーム」というキーワードが頻繁に登場していました。全体を要約すると、直面する様々な課題に対して、一人で抱え込まず、周りの人と協力して解決し

ていくことを、最も重要なメッセージとして伝えていることがうかがえます。

表1 若手教師へのメッセージにおける頻出単語

カテゴリー	頻出単語	頻度
相談・連携	相談(一人で悩まず相談、すぐに相談を含む)	19
	連携	9
	チーム(チームで対応を含む)	6
	協力	3
	共有	2
	周りの先生	12
	先輩	8
	同僚	5
	管理職	5
	専門家(スクールソーシャルワーカーを含む)	4
カテゴリー	頻出単語	頻度
児童生徒	生徒	13
	児童	10
	子ども	7
	関係	7
	指導	7
	伝える	7
	寄り添う	2
	話を聞く	3
カテゴリー	頻出単語	頻度
教師・自己	先生	22
	自分	16
	悩み	14
	教師	4
	経験	4
	気持ち	4
	頑張る	3
	大切	10
	心	2
	対応	10
	コミュニケーション	2
カテゴリー	頻出単語	頻度
その他	保護者	10
	解決	4
	問題	7
	行動	2
	声	4
	勇気	1
	変化	1
	観察	2
	真似	2
	アドバイス	3

Ⅲ 参考資料「先輩教師の技とコツブック」の作成について

1 参考資料「先輩教師の技とコツブック」の作成に当たり

これまでのアンケート調査の結果を基に、作成する参考資料のコンセプトを次のようにしました。

(1) 県内の現状に合った内容で作成

今回行ったアンケート調査の結果を基に、掲載する内容について検討しました。若手教師の悩みや困りごとと、児童生徒との関わり方をよくするために知りたいと思っている内容から、キーワードを導き出しました。出てきたキーワードは次の五つです。

一つ目は、「生徒との距離感」です。児童生徒との適切な距離感をつかむことに苦勞しており、児童生徒に対する細かい注意の仕方や関わり方に悩んでいます。

二つ目は、「問題行動への対応」です。問題行動を示す児童生徒に対して、どのように指導すべきかが課題であり、特に特性の強い児童生徒への理解と対応の在り方が求められています。

三つ目は、「家庭との連携」です。家庭環境が不安定な児童生徒や、連絡が取れない家庭との関係構築が難しく、その対応に悩んでいます。

四つ目は、「児童生徒の気持ちの理解」です。児童生徒の気持ちを理解することが難しく、特に反抗的な態度を示す生徒への関わり方に困惑しています。

五つ目は、「支援方法の模索」です。児童生徒に対する支援方法や言葉掛けの仕方を模索しており、例えば、児童生徒が自分の気持ちを表現できるようにするためにはどのような言葉掛けが必要なのだろうかなど、支援方法の工夫が必要と感じています。

これらのキーワードに対する対応の仕方や考え方を紹介することで、若手教師のニーズに応えることができると考えました。

(2) 先輩教師への相談を促進できる構成

悩みの解決方法で最も多かったのが、先輩教師への相談でした。そこで、参考資料では、若手教師が先輩教師に相談し、それに対して先輩からアドバイスを送るような構成にします。アドバイスの仕方ですが、指示的なものではなく、具体的なコツや技などを含めるようにします。

図7は、若手教師が児童生徒との関係づくりにおいて心掛けて取り組んでいることを示した共起ネットワークです。様々なことに意識して取り組んでいる様子が読み取れます。そこで、若手教師の取り組んでいることを認めながら、先輩教師の失敗体験や成功体験など、経験を基にしたアドバイスを送ることが効果的だと考えます。

図8は、若手教師が児童生徒との関係づくりにおいて、知りたいと思っていることについて、名詞のつながりを示した共起ネットワークです。例えば、リフレーミングとタイミングがつながっています。リフレーミングという技法は知っているが、どのタイミングで、

どのように使用したらよいか、具体的な場面を知りたいと考えていることが読み取れます。このように、具体的な手立てを知りたい若手教師に向けて具体的なコツを含めたアドバイスを送ることにしました。

(3) 先輩教師の技やコツへの解説

当センターの研修講座や教育相談で紹介している内容、蓄積してきた対応例なども含め、先輩からのアドバイスの根拠やその背景について解説を入れます。文章のみではなく、イラストなどを用いて、読みやすくなるように心掛けました。

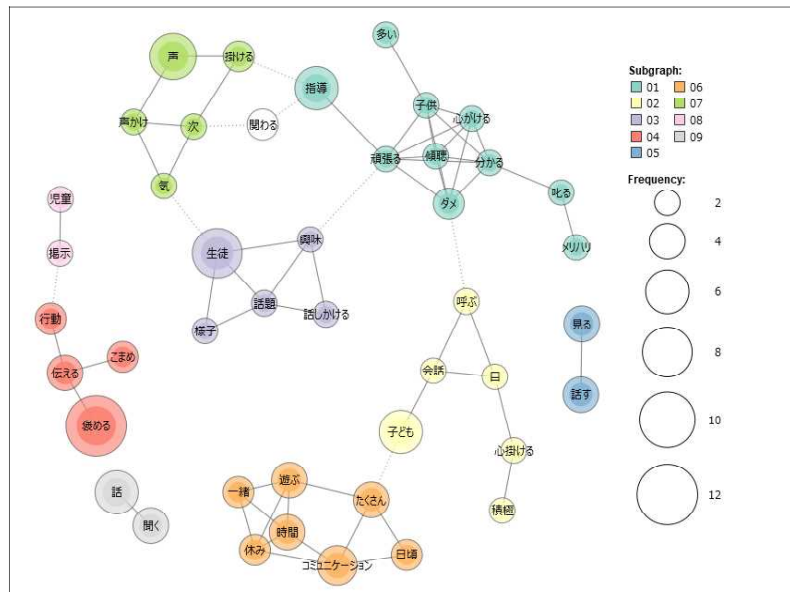


図7 若手教師が児童生徒との関係づくりで心掛けていること

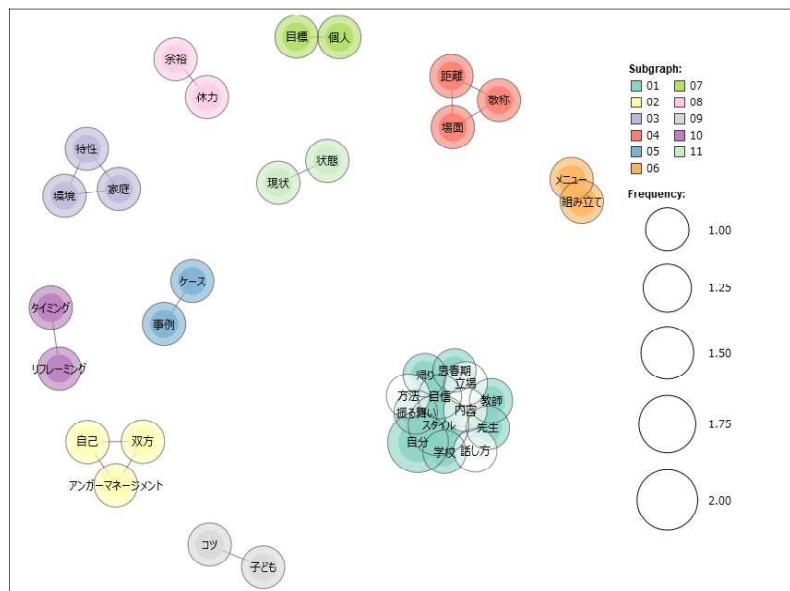


図8 若手教師が知りたいと思っていること

2 参考資料「先輩教師の技とコツブック」

参考資料「先輩教師の技とコツブック」（試案）の一部を次に示します。

はじめに

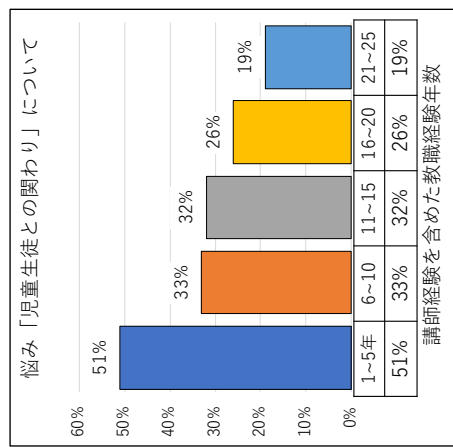
本資料を作成するに当たり、秋田県内の教師683名にアンケート用紙を配付し、どのようなことに悩んだり、困ったりしているのか回答を得ました。

右のグラフは、設問「教師として悩んでいること」に対して、「児童生徒との関わり」と回答した教師の割合を教職経験年数別に表したものです。

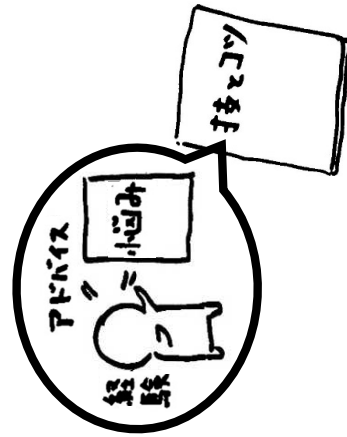
教職経験年数が1年から5年の教師は、それ以上の教職経験がある教師よりも「児童生徒との関わり」において、悩んでいる割合が大いことが分かりました。また、年齢別に集計を行った結果でも同様の傾向が見られました。これらのことから、経験の浅い若手教師が、児童生徒との関係づくりで悩んでいる傾向があることが分かりました。

教師は、経験年数の少ない若手と呼ばれる段階から、児童生徒の教育に大きな責任を有する職です。アンケート調査から、児童生徒との関係づくりに悩みを抱えている若手教師が一定数いることが推測されます。

そこで、先輩教師の経験から導き出された児童生徒への対応の在り方を伝えるための、若手教師とベテラン教師をつなぐツールや、若手教師を支えるの考資料があれば、一助となるのではないかと考え、「先輩教師の技とコツブック」を作成することにしました。



児童生徒とのよりよい関係づくりに関するアンケート
(令和6年 秋田県総合教育センター)



コツブックくん

自身の悩みや困りごとと照らし合わせて、資料を活用してもらえたらうれしいです。

活用に際しては、資料を参考に一人で解決を目指すものではありません。下のグラフは、児童生徒との関係づくりににおいて悩みがあるや回答した教師472名に、どのよう悩みに悩んだり困りごとを解決したのが質問した結果です。複数回答になっていた。全体の91%は「先輩教師に相談した」と回答しました。

グラフにも表れているとおり、先輩教師に相談することで、解決策やヒントを得ることができま。悩みがある方、困っている方は、身近な先輩教師への相談をお勧めします。

本資料を手に「こんなありませんけど、先生は、どのようにしていますか？」など、先輩教師と対話するきっかけになることも想定しながら資料を作成しました。

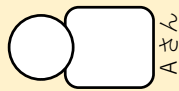
本資料が、先生方の悩み解決の糸口になることを願っています。

先輩に相談しています！



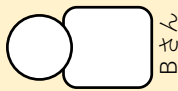
先輩や管理職の先生に相談している人が多いですね

登場する若手教師



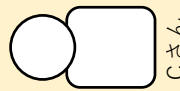
採用2年目
(教職経験2年目)
高等学校教諭
20代

自分の指導に自信がもてず、
つい甘く関わってしまう。
いろいろな場面で、できるだけ
生徒に声を掛けるようにし
ている。



採用2年目
(教職経験6年目)
中学校教諭
20代

自分の学級のこととは、まず
自分で何とかしたいといけな
いと思ってしまう。褒め方、
叱り方に悩んでおり、特に叱
り方に自信がもてない。



採用2年目
(教職経験3年目)
小学校教諭
20代

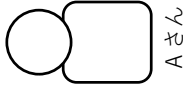
児童のよいところを見付け
て褒めるように心掛けている。
学級の一体感を生み出すには
どうしたらよいか悩んでおり、
指導に自信がもてないでいる。

1 児童生徒との距離感

寄せられた悩みや困りごと



生徒との適切な距離感が
分からなくて困っています。



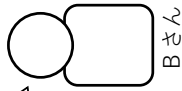
生徒との距離感が分
からない。



どのような場面で、距離
感が分からなくて困った
んですか？



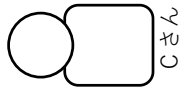
よく言えばフレンドリー
なのですが、なめられて
いるようにも感じて、悩
んでいます。



「なめられているので
はないか」と悩んでい
る。自分のふだんの対
応にも課題があるのだ
と思うが、もっと毅然
とした態度で指導でき
るようになりたい。



距離感って難しいです
ね。



悪いことをして叱責を
されても返事ができな
かったり、自分のした
ことを認めようとしな
かったりする児童がい
る。どういふ言葉掛け
がよいか分からなくて
困っている。

先輩教師からのメッセージ

自分も同じ過程を経験しました。
なめられないように、あれこれ厳
しくしていたら生徒との距離を感
じるようになってしまったことも、
肩の力を抜いて接するようになっ
てから楽になりました。

ことあるたびに児童を注意して
いたら「怒ってばかりいる先生」
になってしまったことがあります
た。そのときの児童とは距離感を
感じるようになり、つらいと感じ
ることが多かったです。

例えば、下のクイズは新学期の最初の授業の際、教科担任が自己紹介を兼ねて、児童生徒との人間関係づくりのために行ったものです。グループで相談させてもよいでしょう。

【○○先生の自己紹介クイズ】



- 第1問 私の年齢は（40歳 36歳）である。
 第2問 私の生まれは秋田県の（横手市 大館市）である。
 第3問 私は中学校のときは（陸上部 卓球部）で活躍した。
 第4問 私の趣味は（映画鑑賞 キター）である。
 ・
 ・

このように、教師の方から積極的に自己開示することで授業の雰囲気や和らげることにつながります。



特別支援学校の教師です。気になる生徒との関係性が少しずつ築けてきましたが、精神的に1日いっぱい関わりを保つのがきつい場面が増えてきました。今は大切な時期なので踏ん張りどころだと思っております。

先輩教師の技

主に関わる教師を決めつつも、自分が仲立ちをすることや関わる教師を少しずつ増やしていくようにしました。そのような時間をもつことができたことで、自分は気持ち新たに仲間やれぞれの教師が気持ちを向けて新たに生徒との関係性を築くことができました。

「T Tの連携を効果的に」

特別支援学校ではT Tの連携がポイントになります。気になる生徒に関わるには予想外の言動も見られることが多い、大きなエネルギーを必要とする場合も多くあります。

担当を決めて一人に任せきりにすることのないように、関わる時間や場所、場面を柔軟に決めるなどしてチームで子どもと担任を継続的にサポートしていく体制をとっていきたいです。



「子どもの気持ちに寄り添うことが大切だ」とよく言われます。でも、何でも受け入れてしまうと、子どもに自己中心的な勘違いした行動が増えてしまうのではないかととても心配です。

先輩教師の技

休み時間などではできるだけ子どもたちと一緒にいるようにしました。こうしたフランクに一緒に過ごす時間を下支えにして、授業中などは、伝えたいこと（ルールやマナーなど）を毅然と伝えるようにもしていました。

以前よりは、子どもたちも、気持ちを向けて聞く耳をもってくれるようになってきました。

「主導権は誰がもつ？」

発達に遅れのある子どもの場合、自己主張をする時期が通常より遅く見られ始める場合もあるので、自己主張が見られるようになったことだけを喜び、何でも受け入れてしまいがちです。そのような大人の態度を見て、子どもは、自分が何でも決めてもいいんだと誤学習し、大きくなって一番病からなかなか抜け出せないとか、静かにしなければいけない場面で騒いでも平気であるなどのケースもあります。

「大人が決めること」と「自分が決めていくこと」を教えていくことも大切です。主導権、決定権は大人がもって接することができるようになることも、ある時期の子どもの成長のためには大切だと思います。

登場する若手教師



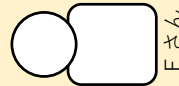
採用2年目
(教職経験3年)
高等学校教諭
20代

生徒の行動で、理解できないことがある。つい厳しく関わってしまふことに課題を感じている。また、褒め方、叱り方が分からずに悩んでいる。いろいろな生徒を気に掛けるようにしている。



採用2年目
(教職経験2年)
小学校教諭
20代

日頃から、児童とたくさんコミュニケーションをとることを心掛けている。しかし、問題行動の多い児童への対応や保護者への連絡の仕方などに悩んでいる。



採用2年目
(教職経験2年)
小学校教諭
20代

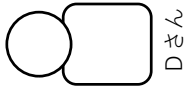
児童の行動の理解に悩んでいる。アンガーマネジメントなど、対象児童に必要だと思われることを検討し、取り組んでいる。

2 問題行動への対応

寄せられた悩みや困りごと



細かな注意をどれだけすればよいのか悩んでいます。



細かい注意をどれだけするか悩む。



どのような場面で、注意をすればよいのか悩んでいるのですか？



注意したのに、すぐに繰り返すんです。あまり口うるさく注意してもよくないと思っています。



問題行動が多い子の対応の仕方について、どのような指導の仕方が効果的なのか悩んでいる。



口うるさく感じないようにな、様子を見ながら注意の仕方を工夫しているのですね。



何を言っても反発してくる子どもにどう接するべきか。どういう言葉掛けがよいか分からなくて困っている。

いくつかの方法を試してみませんか。

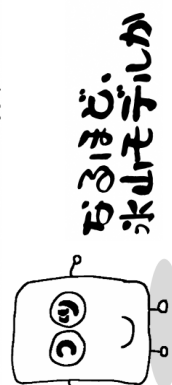
先輩教師からのメッセージ

何度も同じことを注意していると授業が進まなかったり、学級の雰囲気が悪くなったりして困った経験があります。真面目にやっている子どもが不満を感じるようになってきたため、注意するよりも真剣に取り組んでいる子どもへの対応に力を入れることにしました。すると不思議なことに、注意を受けていた子どもたちの問題行動が減少して、学級のまとまりを感じるようになりました。

児童生徒の思いを聞く場面、指導する場面のバランスを考えながら対応するようにしています。

児童生徒の思いや考えについては、理由も聞かずに否定したり、逆に全てを受け入れたらするのではなく、まずは「受け止める」ことが大事だと思います。その上で、社会適応や一般的な考えとの差を縮められるように、不適切な言動と捉えられる原因やその言動をとることと起こる結果、適切な言動をとるための考え方や方法を具体的に伝えていくことを心掛けていきます。

児童生徒行動への対応において
児童生徒理解は必須だね



ちるほび、
氷山モテるか

コツ & 解説

児童生徒に注意をするときには、「○○しないさ」ではなく、私を主語にして伝える「アイメッセージ」がおすすめです。アイメッセージでは「相手の行動」「それによる影響」「私の感情」の三部構成で伝えると効果的です。例えば、教師の指示を聞かずに、おしゃべりする児童生徒がいた場合「○○さんが指示を聞かないでしゃべりしている」と（行動）、話がしにくくて（影響）、困る（感情）だけを「と、伝えます。それで児童生徒の行動に修正が見られた場合は「ありがとう」と伝えるなどして、望ましい行動を強化するとよいでしょう。叱るよりも時間が掛かると感じるかもしれませんが、児童生徒との関係づくりに役立つと思います。

自分の思い通りにいかなくて泣いたり、怒ったりする子ども、衝動的に飛びついたり、自分勝手に動いているように見えたりする子どもなど、いろいろな子どもがいます。まずは「何がしたいのか」「どんな気持ちなのか」といった思いを聞くようにしています。

私たち教師は、児童生徒にとって、自分のことを分かってくれて、安心できる存在になりたいもので、児童生徒が望ましくない行動をしてしまった際には、問題となる部分のみを指摘するのではなく、氷山モデルの考え方を思い出し、行動の意図や背景を想像するようにしています。背景要因を解明することができれば、それに沿った環境づくりや補助的手段等の準備など、支援内容を考えることにつながり、児童生徒も心地よく過ごせる時間が増えるように感じています。

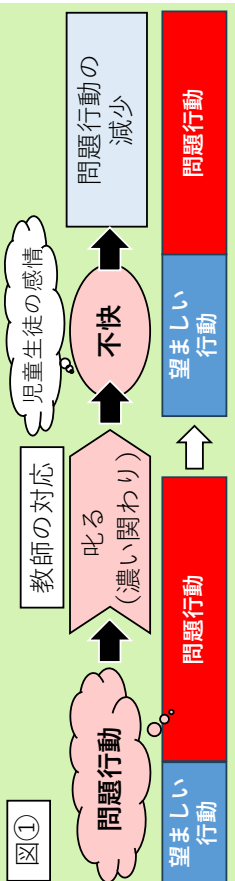
コツ & 解説

・行動の目的を考える

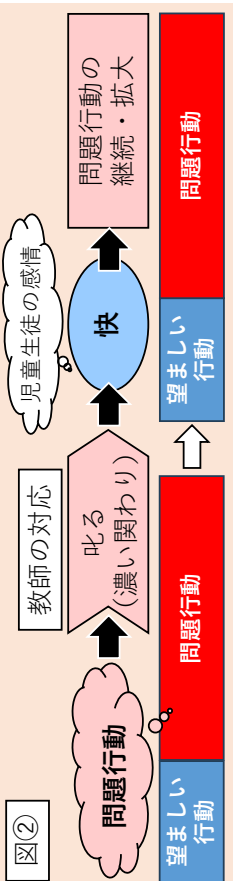
承認欲求で行動している児童生徒は、問題行動に対して叱られると不快に感じ、問題行動が減少します（図①）。

しかし、交流欲求が強い児童生徒の場合、問題行動を叱られると、交流したという欲求が満たされることになるため、問題行動が強化され、問題行動が継続したり、拡大したりすることがあります（図②）。常態的に問題を繰り返す児童生徒の場合、交流欲求で行動をしているのかもしれない。そのようなときは、普通の（望ましい）行動に對して濃く関わってみよう。普通の（望ましい）行動の際の関わりで交流欲求が満たされることにより、普通の（望ましい）行動が増加します。すると、普通の（望ましい）行動の増加により、相対的に問題行動の減少が期待できます（図③）。

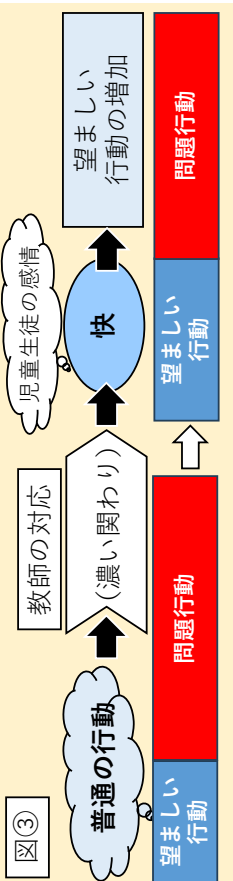
図①



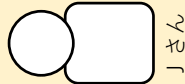
図②



図③

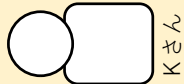


登場する若手教師



採用2年目
(教職経験5年)
特別支援学校教諭
20代

児童のよいところを見付けて褒めるように心掛けています。学級の一体感を生み出すにはどうしたらよいか悩んでおり、指導に自信がもてないでいる。



採用2年目
(教職経験4年)
小学校養護教諭
20代

保健室に入室した児童と関わることが多い。来室がない児童とも関係性を築けるようにふだんから声を掛けるようにしている。また、担任や管理職と情報を共有し、児童の特徴や性格等を理解できるように心掛けています。



採用2年目
(教職経験4年)
中学校教諭
20代

よい行動は褒め、だめなこととは生徒を個別に呼んで注意し、改善を促す対応をしている。気になる生徒への対応や内面の理解について先輩教師に相談もするが、教師間の考え方の違いもあり悩んでいる。

4 児童生徒の気持ちの理解

寄せられた悩みや困りごと



児童の気持ちからな
くて困っています。



どのようなときに、そう
思ったのですか？



グループの話し合いのとき
に参加しなくて、理由を
聞いても「別に」って言
うだけなんです。



なんで参加しないのだ
ろうって疑問に思うこ
とって大切だと思うん
です。支援につながり
そうですね。

私も児童の行動について、
原因は何だろうって悩み
ましたよ。

まずは、いろいろな角度
から考えてみましょうか。



児童の考えや気持ちを理
解することが難しい。
児童が望ましくない行
動をしてしまったとき
の対応の方法が分から
ない。



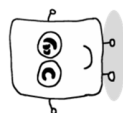
子どもたちが体調不良
を訴えて保健室に来た
ときに、症状だけでは
なく、心身の状態を理
解するための関わり方
が子どもによって違
うので、個々への対応
の仕方が難しいと感じる。



学習に気持ちが向かな
い生徒への対応につ
いて教師間でも意見の
違いがある。どのよ
うに考えたらよいのか。

先輩教師からのメッセージ

先輩も日々の積み重ねで
信頼関係を築いたんだ



その児童生徒との個別の時間をとれるように工夫してみました。自分は始業前の時間に10分間だけ雑談することからスタートしてみました。1か月くらいすると、生徒からの発信が増えてきたように思います。自分も落ち着いて向き合うゆとりができました。

IV まとめ

1 研究の成果

アンケート調査により、県内の教員の悩みや困りごとの現状について把握することができました。特に、教職経験年数や年代別に分析を行ったことで、児童生徒との関係づくりについて、若手教師が経験豊富な教師と比べて悩みを抱えている傾向があることを明らかにすることができました。

また、若手教師が悩んでいることに対し、ベテラン教師の経験に基づくアドバイスを集めることができました。それによって、県内の教師の声を反映させた、若手教師の悩み解決に向けて支えとなる参考資料を作成することができました。

2 課題と今後に向けて

児童生徒との関係性を見直したり、先輩教師との相談を促したりする、チェックシートの作成や、研修講座で参考資料を活用し、先輩教師の技、コツを集めること、相談を受ける先輩教師向けの資料を作成すること、などを検討しています。

研究2年目、3年目では、参考資料の活用を通して、若手教師と児童生徒のよりよい関係づくりを促したいと思います。そして、全ての児童生徒と教師が安心して生活を送れる学校を目指したいと思います。

＜引用・参考文献＞

秋田県総合教育センター(2001)『研究紀要第32集4分冊の4』

中島晴美(2023)『ウェルビーイングな学校をつくる』教育開発研究所.

横田秀策(2023)『ウェルビーイングな学校づくりのためのポジティブ心理学：先生や子ども、そして保護者の幸せな人生に向けて』アルテ.

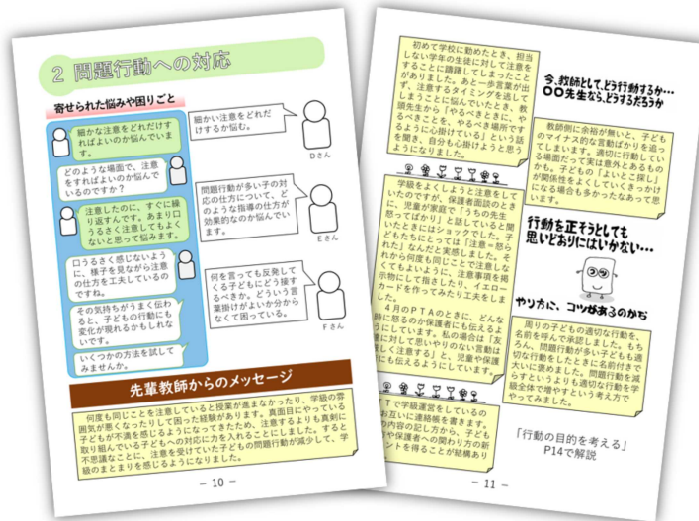
文部科学省(2024)令和5年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果(概要). https://www.mext.go.jp/content/20241220-mxt_syoto01-000039268_1.pdf

ベネッセ教育総合研究所(2017)第6回学習指導基本調査 DATA BOOK(小学校・中学校版)[2016年]. https://benesse.jp/berd/up_images/research/Sido_SYOTYU_05.pdf

ベネッセ教育総合研究所(2017)第6回学習指導基本調査 DATA BOOK(高校版)[2016年]. https://benesse.jp/berd/up_images/research/Sido_KOKO_all.pdf

センター研究 3

ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために
～「先輩教師の技とコツブック」の作成と活用を通して～（3年計画・1年次）



副主幹（兼）TL

相 場 力

主任指導主事

島 津 憲 司

指導主事

伊 藤 賢 悦

高 橋 亜希子

伊 藤 努

小野寺 祐

進 藤 拓 歩

高 橋 真理奈